

ACTION FROM FUKUOKA

# 減CO2クラブ

第4号

Fukuoka Center for Climate Change Actions  
<http://www.keea.or.jp/center/index.html>

## CONTENTS

- 巻頭特集  
学校教育における環境教育のすすめ（九州女子大学教授 中村重太）
- 地球温暖化防止活動推進員活動レポート
- 地球温暖化対策地域協議会  
八幡東田地球温暖化対策地域協議会（北九州市）  
健康の家福岡省エネルギー住宅普及協議会（福岡市）  
福岡市地球温暖化防止市民協議会（福岡市）
- ふくおか環境データBOX  
県内市町村の温暖化対策取り組み状況（アンケート調査結果より）
- INFORMATION（センターからのお知らせ）  
エコファミリー応援事業参加者募集はじまる



「ふくおか地球温暖化防止シンポジウムin久留米」(9月16日 久留米市石橋文化センター共同ホール)

Vol. **4**  
2006  
November

奇跡の星・地球。あなたを守りたい

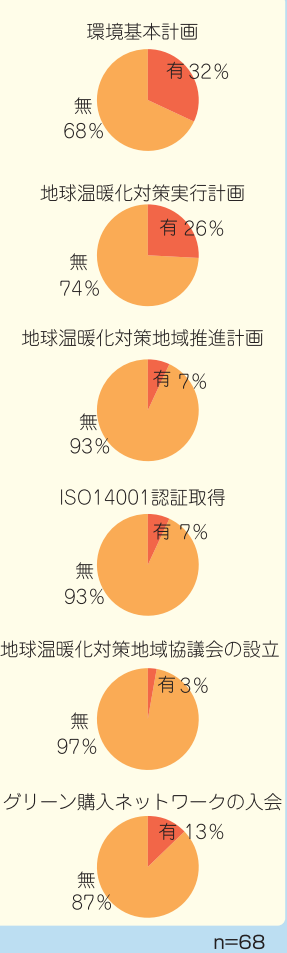
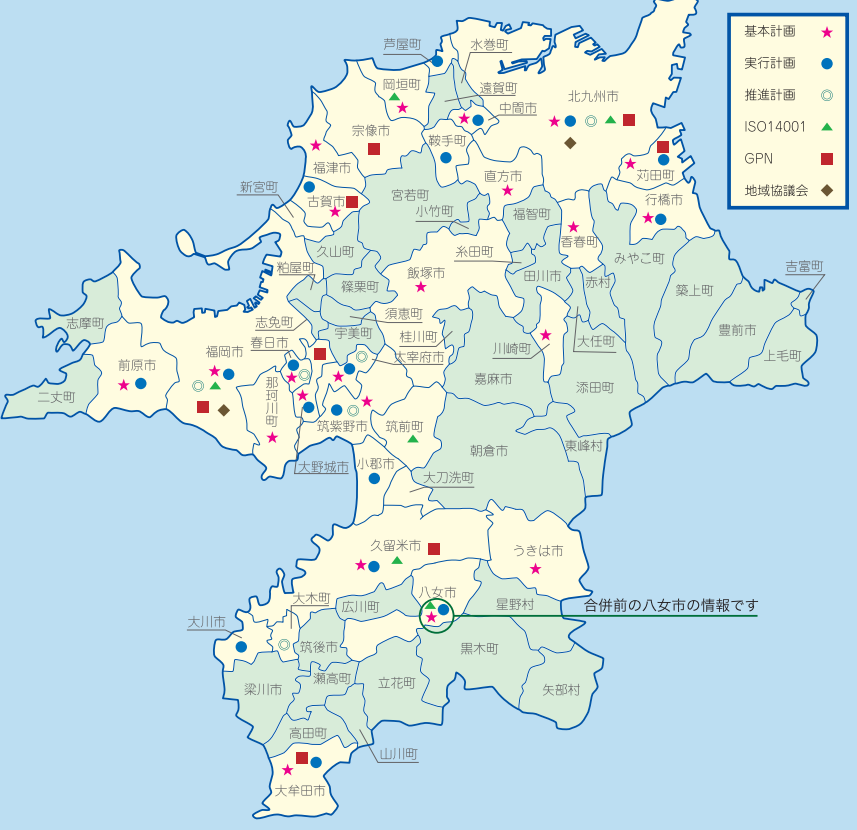


減CO2クラブ Vol.4 第4号 2006年11月発行  
発行 福岡県地球温暖化防止活動推進センター  
〒813-0004 福岡市東区松香台1丁目10番1号  
TEL 092-674-2360 FAX 092-674-2361



# ふくおか環境データBOX

—県内市町村の温暖化対策取り組み状況（アンケート調査結果より）—



## INFORMATION

### 県ではエコファミリーを募集しています

～家庭からはじめる地球温暖化対策～（10月10日（火曜日）から受付開始）  
エコファミリーとは、福岡県環境家計簿の記帳を通じて、電気やガス、水道、ガソリン使用量の節減など省エネルギー・省資源に取り組んでいただく家庭です。

- 応募対象：県内に在住する世帯で構成するグループでお申し込みください。（自治会、婦人会、NPO、PTA、学校、職場など。その他任意にグループを構成しても構いません。）
- 募集期間：平成18年10月10日から平成18年12月28日まで
- 応募方法：グループ代表の方は、所定の申込み用紙にご必要事項を記入の上、各市区町村窓口へお申し込みください。



※申し込み時に、窓口で環境家計簿を配布いたします。  
※申込み用紙は県のホームページからもダウンロードできます。  
(<http://www2.wagamachi-guide.com/fukuoka/hp/index.html>)

●問い合わせ先：県環境政策課地球環境係 TEL 092-643-3356

## 福岡県地球温暖化防止活動推進センター

（財団法人 九州環境管理協会）



〒813-0004  
福岡市東区松香台1丁目10番1号  
TEL 092-674-2360  
FAX 092-674-2361  
E-mail [fccca@keea.or.jp](mailto:fccca@keea.or.jp)

<http://www.keea.or.jp/center/index.html>

## 編集後記

高騰が続いていたガソリンの販売価格が最近安くなってきた。自動車を利用する人たちは、この間経済的理由から省エネを意識した人も多いと思う。考えてみれば、私たち人類は火を使用するようになって以来、再生可能なエネルギー資源を細々と使い続けて生きて来た。つまり、エネルギーの消費量は、年々降り注ぐ太陽エネルギーの範囲内に限定されていた訳である。ところが、18世紀後半の産業革命以来、長期間の太陽エネルギーが蓄積された石炭や石油などの化石燃料が発見されて大量に使われ始め、エネルギー的に見ると、その年の太陽エネルギーから人類が使える総量を遥かに超えてしまった。まるで月々の収入の範囲内でつましく生活を送って来たサラリーマンが、ある時先祖から受け継がれていた宝をみつけてしまい、急に派手な生活を始めたようなものである。この分不相応な幸福は、エネルギー収支から言ってもいつまでも続けられる筈がない。化石燃料は量に限りがあり、再生不可能な資源である。いつまでも浮かれていないで、そろそろ自分の貯金通帳とにらめっこする時期が来ているようだ。（文責 N.O）



# 学校教育における環境教育のすすめ

九州女子大学 中村重太



今日、「環境教育」は、国民誰もが耳にする一般用語になってきています。また、多くの国民が日常口にしています。そんな「環境教育」も、今から20年前には一部の関係者のみが用いていた特別な用語でした。それが、今日のように、国民一人一人が避けて通れない重要な教育と認識してきた背景には、それなりの理由があったようです。

ところで、その「環境教育」に関しての国民一般の概念には、かなり異なったものがあります。それは、「公害教育」であったり、「環境問題理解教育」、「環境保全教育」、「環境科学教育」、「自然保護教育」であったりと、いろいろです。これらも、環境教育の一部として包含されるでしょうが、今日の「環境教育」の生誕の経緯やその目的・目標、内容などを正しく理解した上での環境教育の実践が望まれます。

子どもの時、磯で貝や魚を捕ると、近所のおじさんから「小さいのは捕るな。海に返してやれ。」、「子持ちの魚は捕るな。」などとよく注意を受けていた。山の人は「今年はイノシシは5頭以上は捕らないでおこう。」などの約束がありました。それも、地域の環境と共存して生活を営んでいこうとした一つの「環境教育」であったと言えるでしょう。しかし、今日私たちが用いている「環境教育」は、それらとは異なる概念を持っていますし、その実践に関しても異なった内容や方法が考えられなければなりません。

ここでは、そんな「環境教育」のうち、学校教育における環境教育に絞って、それに関わる基礎的な考え方と、実施上配慮していただきたい点をあげてみます。

世界の人口の爆発的な増加が予想された半世紀前に、多くの科学者が地球の危機を予見し、それをくい止めるための提言がなされ始めたが、具体的な動きはそれから数十年も経た1970年代に入ってからでした。まず、アメリカでは1970年に「環境教育法」を定めました。これは、「環境教育とは人間を取り巻く自然及び人為的環境と人間との関係を取り上げ、その中で、人口、汚染、資源の配分と枯渇、自然保護、運輸、技術、都市や田舎の開発計画などが、人間環境に対してどのような関わりをもつかを理解させる教育のプロセスである。」とうたわれているように、環境問題に関する理解を目標とするものでした。

しかし、それから僅か2年後の1972年にストックホルムで開催された国際連合人間環境会議（UNEP;United Nations Environment Program）では、「環境教育の目的は、自己を取り巻く環境を自己のできる範囲内で管理し、規制する行動を、一歩ずつ確実にすることのできる人間を育成することにある」と、人間の本性である問題解決能力の育成をねらいとした教育へとその性格を変えてきました。その後、この具体的内容と方法を検討するワークショップがベオグラードで開かれて、「環境教育」の目的と目標、内容、方法が定められ、ここが今日の「環境教育」の原点と言えます。

そこでは、「環境とそれにかかわる問題に気づき、関心をもつとともに、当面する問題の解決や新しい問題の発生を未然に防止するために、個人及び集団として必要な知識、技能、態度、意欲、実行力などを身につけた世界の人々を育てることにある。」と記してあり、俗に言われる「ベオグラード憲章」です。ここで、環境教育の目標が、知識、技能、態度、意欲、実行力の習得としてあげられました。従って環境や環境問題を理解させることを目的とした環境問題理解教育も環境科学教育も環境教育の範疇です。

少し諄いことを書きましたが、さらに付け加えておきますと、ベオグラード憲章から2年後に、1975年のIEEP（International Environmental Education Programme）（国際環境教育プログラム）の設立を受けてトリビシで開催されたユネスコ「環境教育」政府間会議（トリビシ会議）では、次のような基本的な考えの基に幅広い視点での環境教育の推進を打ち出しました。

○**基本姿勢**：「人類は、地球の資源を守るだけでなく、より豊かにして、将来の世代への遺産として残せるような方法で利用しなければならない。環境問題というのは、天然資源に害を与えるような、不合理な利用や汚染といった問題だけではない。住宅の不足、劣悪な衛生事情、栄養不良、不備な経営と生産技術、そして、さらに貧困から生じるあらゆる問題を広く含むものである。また、文化的、歴史的遺産の保存の問題も含まれる。」

○**宣言**：「環境教育は、生活環境の保護と改善を促進し、従って、生態系の保護や人間生活の質を向上させるものである。環境教育は、生物圏の保護、あらゆるところでの生活の質の向上、聖地や歴史的場所、芸術作品、記念建造物、遺跡、植物相と動物相、居住地などの、人間と

自然の環境を含む、文化及び自然遺産や、倫理的価値観を大切にすることを目指す、認識、行動態度、価値観をつくりだすことを目標とすべきである。」

## ○目的

認識：集団や個人が、環境全体とそれに関連する問題に対する認識をもち、それに対する感受性を持つようにすること。

知識：社会集団や個人が、環境やそれに関連する問題で様々な経験をえて、問題の基本的な理解を得るようにすること。

態度：社会集団や個人が、一連の環境を大切にする価値観と感情をえたり、環境の改善と保護への活発な関与をもたらし意欲をえるようにすること。

技能：社会集団や個人が、環境問題を確認し解決する技能をえるようにすること。

関与：社会集団や個人に、環境問題の解決へ向かう動きに、あらゆるレベルで活発に関わり合いをもつ機会を与えること。

このように環境教育は、私たちがこの地球の一員としての生を受けて、健やかに、かつ幸せに生活していくことができるための、ヒトとしての環境が保障されるための教育です。

私達の生活を取り巻く今日の環境問題は、私達一人一人がより幸せな生活を求めている活動に深く起因しています。従って、その解決のためには、一人一人が人間と環境との関わりについて正しく理解して認識をより深め、環境に配慮した生活や責任ある行動をとることが重要になります。そして、経済や社会などの仕組みを、環境問題を発生したりさらに深刻にすることのないように変革する努力が必要となります。そのためには、環境に対する豊かな感受性や幅広い見識をもった人づくりが今日の環境問題の解決やこれからの環境保全の推進に対する確かな方法であり、これが環境教育の必要性の所以です。

従って、環境教育を考える場合の基本的な考えとしては、次のようなことがあげられます。

- ・自分が環境問題の加害者であり、被害者であることの認識を促す教育である。
- ・家庭・学校・地域が連携、一体となった公的な教育である。
- ・全世代にわたる教育であり、生涯教育である。
- ・地域と生活に対応し、日常の生活に立脚した消費者教育である。

ところで、今日、学校教育における環境教育の推進にむけて、学校教育関係者だけでなく地域の関係者が関わって、多彩な環境教育活動が行われてきています。特に、平成10年12月の学習指導要領の改訂によって、青少年に「生きる力」を育成するために、教育課程の中に「総合的な学習の時間」が設定され、環境教育の目標や内容がその設置の目的と適合することから、環境教育の実践にむけて一気に拍車がかかってきました。

学校における環境教育の重要性に、今更言及する必要はないでしょうが、その実施に当たって問題点がいくつか散見されます。その改善のための配慮したい点を二三あげてみます。

## ○教育の内容や方法を計画する場合、子どもの発達段階を十分に考慮すること。

子どもは大人の小型ではありません。全く異質のものの見方や考え方をしていますし、知識も不十分で、技能も不備です。従って正しい理解を求めようとすると無理が生じます。しかし、たとえ不十分であり未完であっても、それは将来立派な成人へと成長する一過程にいる子どもです。知的好奇心に満ちたヒトです。五官で情報をとらえて（観察）、考えて（思考）、そして判断する活動を常に行っています。すなわち、認識活動をしています。その結果得られた知識や概念は新たな場面で用いられます（応用、創造）。この一連の問題解決活動が「科学する活動」と言われる、ヒトの本性の一つの科学性です。この科学活動は、まず見ることから始まります。そこでは知識の有無や概念によって見え方が違いますし、興味関心によっても見る対象が違ってきます。知識の有無も興味関心の対象も感じ方も考え方も、発達の年齢によって大きく異なります。特に小学校の子どもは、このような点が成人と大きく異なります。その点を考慮することが重要です。

小学校では、自分の身近にあり、生活の中で常に関わっている事物現象を直接に体験する活動が学習の主となります。理論や論理の世界ではありません。中学校では、豊富になった知識を組み合わせる主体的な問題解決活動を行い、自分の自然観や社会観を形成することが可能になります。すなわち、環境問題理解教育が可能になります。しかし、そこでも体験を伴った理解が望まれます。高等学校では、創造と行動化がねらいとなってきます。社会的問題に関し関心とその解決にむけての思索と行動的な取り組みが求め



られます。

# ○家庭・学校・地域が連携し、かつ一体となった学習環境を整備すること。

先にも述べたように、環境問題は日常生活に起因しており、環境教育は生涯教育でもあり、消費者教育でもあります。従って、決して学校の中だけの教育ではありません。日常の生活を見直すとともにその改善にむけて生活のあらゆる場面で問題解決の行動化が望まれています。学校での子どもの学びの内容や様子が保護者や地域に発信されることで、家庭や地域が各自の役割を認識し、家庭や地域の教育力が復活していくことが望めますし、環境教育のより一層の普及とその定着には重要な視点と考えます。

# ○環境教育の授業実践は、教科指導や行事での指導から気楽に試行していくこと。

教育課程の中に環境教育を取り込むことに関しては、多くの学校や教員が抵抗感を感じているのではないでしょう。特に、総合的な学習の時間で行う環境教育の計画や実践に困難を感じているようです。環境教育も総合的な学習の時間が新しい教育用語ですので、それらの概念ができていないことが大きな原因でしょう。環境教育の授業では、環境教育として内容や方法があり、環境教育としての授業の姿が歴然と見えなければならないというプロジェクト型の環境教育を考えるとところに難しさがあります。むしろ、先に述べた環境教育の目標を理解したうえで、日頃の教科指導の中で単元の内容に関係したものを環境教育的視点を入れて指導する挿入型や総合型の指導を行うことから慣れ

ていくことが第一歩であろうと考えます。教科指導や行事の中で環境教育的指導を重ねていって、総合的な学習の時間のプログラム作成に取り組むことが望めます。

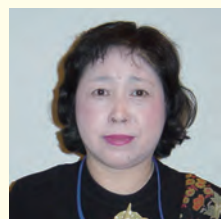
# ○教師各自が環境教育の指導理念を確立すること。

ここでは環境教育の生誕の経緯に沿って、環境教育の目的や目標の変遷を簡単に説明しましたが、環境教育が何をねらった教育であるかをしっかりと理解し、今日の病める地球の実態や環境問題に関しての研修・学習を通して、各自の環境教育の指導理念を確立しておけば、指導設計時に環境教育的な視点からの教材研究が自ずとできます。

ある先生が小学校4年生で牛乳パックの紙を利用して再生紙を作る活動を行ったことに対して、「水をたくさん汚したが、それでも環境教育を指導しているといえるか。」と同僚の教師から非難されたと聞きました。また、空き缶を集めた学級活動に対して、「それは単なる美化運動ではないか。」と問われたそうです。このような事態に際しても、しっかりした環境教育の指導理念を持つことによって、相手に説明ができるでしょう。

今日の環境教育は、生まれて30年しか経っていませんが、国民誰もが耳にするまでになっています。それは、私たちを取り巻く地球環境の問題が身近であり、かつ深刻であるからでしょう。環境教育は豊かな生活を送るためには避けて通れないものであると同時に、ヒトとして具備された問題解決能力の育成に大きく寄与する教育であることを認識して、今後もより一層環境教育を推進していきましょう。

## 地球温暖化防止活動推進員活動レポート



北九州市  
久永恵美子

この夏も一晩中クーラーの欲しい熱帯夜が続き、台風の多発や洪水の大きな被害と環境破壊はもう止められないのでは、と思う程で胸が痛みます。CO<sub>2</sub>の排出量6%削減を目標に毎年参加している、環境家計簿コンテストの表彰式が六月に環境首都推進室主催で行なわれ、同時に未来ホタルデーのイベントに出展参加しました。これには西北九州地域の推進員の皆様とパネルやビデオを使って地球温暖化の現状を説明したり、日本古来の素敵な柄の風呂敷を使い、包む楽しさや便利さを実演紹介しました。八月の真夏の夕べにはヒートアイランド対策のひとつ打ち水大作戦と銘打ち、私達市民ボランティア主催で市の応援を戴き、下水処理水を利用し、浴衣姿で柄杓でコンクリートに打ち水、1.5度も気温の低下が測定され、家庭や地域で誰にでも出来る温暖化防止対策をアピール致しました。ワッショイ百万の祭りの日とあって小さな子供達も喜んで大勢参加してくれました。九月からは川の再生、町おこし事業を目的に中間市、北九州市の小学校で、使用済みペットボトルを利用した風車の製作指導を進めています。子供達にリサイクルの話を通して、地球を守るため、“もったいない”そして“感謝の心”を大切に、一人からでも行動しようと呼びかけています。十月には2000個のカラフルな風車が橋の欄干を賑せてくれる事でしょう。あらゆる機会を通して“出来ることから、身近なことから”を呼びかけ、温暖化防止活動を推進していきたいと思います。



添田町  
代一二三

町の担当者より軽い気持ちで推進員を引受けましたが、何をすれば良いのか皆目検討もつかず委嘱後資料は勿論、推進員の方々との交流と活動の中で任務の重大さを痛感、現在定年退職後勤務している関係でその任務に没頭出来ず、疎かになって大変ご迷惑をおかけしているのが現状です。在職中は、農林業、観光関係の英彦山を主とした自然保護に関連する業務、公園の維持管理等に携わって来ましたがホタルの保護にも取組んで来ましたが。化学物質、農薬等により昆虫類が減少、特にホタルが激減したため、町内各河川のホタルの生殖状況調査、観察、養殖を行い、小学生対象にホタルの生態あるいは環境について学習を行なって来ましたが。地球温暖化によって、英彦山の自然も変化しブナ、シオジ林等減少しており、再生、保全に努め植樹を行い、自然林の拡大と保護に努め登山愛好者のボランティアの手によってブナ等の植樹も行なっておりますが今後は更に、町民連携のもとに雄大な自然を守り、人と自然と共存する快適な環境づくりと温暖化につながる保全と省エネ対策に取り組んでいきたいと意を新たに頑張りたいと思っています。



古賀市  
福井 弘

これまで地球環境のことを考えることなく過ごしてきましたが、東京勤務時、大都会の利便性、物の豊かさ、情報の速さを知ると共に、異常な暑さや集中豪雨、光化学スモッグ等を体験しました。団塊世代の私は大量生産、大量消費、利便性の追求等の高度経済成長時代、その一翼を担う役割を果たしてきましたが、その結果大量の廃棄物を生じ、さらに生活レベル向上、情報化社会の構築は人の満足レベルを限りなく高めており、地球に大きな負担となっていることを知りました。そこでかけがえのない地球環境を守るために『もったいない』の精神で身近にできる温暖化防止活動の実践と、家庭、事業場における環境家計簿のより一層の普及を図ることを目標としています。東部地区の推進員やセンターにご支援頂いた古賀市環境フェスタでの温暖化防止の推進、啓蒙活動など日常生活の中で環境問題や保全に人々の熱意と意欲が一層高まるよう地球温暖化防止推進員としてさらに活動を行っていききたいと思います。



粕屋町  
清水正幸

昨年、福岡県地球温暖化防止活動推進員に任命されて以来、いろんな所でいろんな人に活動の重要性について、話をしてきましたが、地球という名前のせいか、誰にとっても遙か彼方の話のような気がして、なかなか具体的な活動に結びつかないのが現状です。

私は、6%のうちの3.9%（森林がCO<sub>2</sub>を吸収してくれる分）に着目し、3.9%を5%、10%に増やすことを目標に活動が続けています。地元の木を地元の人たちの手で植樹し、本物の森、命の森を作り出したいと考えています。まだまだ、少人数で微力な活動ですが、いつか、私の思いが、子供たちに伝わり、大きなうねりとなって、緑につつまれた、美しい粕屋町、美しい福岡県が誕生することを願っています。



福岡市  
田中由紀子

「グリーンベルト運動」を推進された、ワンガリ・マータイ博士の合言葉、「もったいない」。博士からは、「何かを変えようと思ったら、まず、自分自身を変えることです。生きることは、素晴らしい体験ですから、エンジョイしていくべきです」と伺いました。一人一人が地球環境について、もっと考えて生活をしていかなければ温暖化を止める事は難しいと実感しています。私の環境の取り組みは、生活の中でゴミを減らす。資源に廻せる品物は、リサイクルする事を心がけています。昨年、「環境にe（いい）ことコンテスト」に参加しメンバーを募り、5名で結成。たんぽぽグループとして活動、環境に優しい生活ができるか様々な検討を行いました。そして第一番に「毎日のレジ袋」、もったいないとマイバック運動を展開。ある方はマイバック作りに挑戦、愛着のバックでさっそく買物へ。また、省エネにも取り組み楽しく賢く環境にeことを実行、その結果、チャレンジ賞を頂く事ができました。今年はさらに2名の方へ拡大し、2グループ7名で挑戦中。私に縁する友人へ、地球温暖化の事をもっと知ってほしい。主婦の立場でできる省エネについて語っています。エアコンと同時に扇風機をつけた方が省エネになる事など、私の工夫例を伝授しています。もう一つは、5年前新築時に太陽光発電設置により、エネルギーを生み出す二重のメリットを実感。お財布にも優しい、地球にも優しいエコライフ拡大を、校区の公民館などへ啓発運動を推進していきます。

## ■新たに8人の推進員が県知事より委嘱されました。

豊前市：藤井 郁    新宮町：森 康治    久山町：小川 千鶴子    遠賀町：川崎 正壽  
小竹町：リース香織    宮若市：和田 靖男    宮若市：古崎 栄次    二丈町：瀬戸 道孝



# 地球温暖化対策地域協議会

市民の日常生活や事業活動の中に自主的な温暖化防止の取組を広めていくために、地域の事情に応じた効果的な取組や参加メンバーの役割等について協議し、地域密着型の対策を推進していくための法定組織（地球温暖化対策推進法第26条）が地球温暖化対策地域協議会です。福岡県下では、現在3つの協議会が登録され、地域の温暖化防止活動を実施しています。

## 八幡東田温暖化対策地域協議会

協議会事務局：  
白川達

八幡東田温暖化対策地域協議会は、北九州市八幡東区の新規開発地区である東田地区に立地する企業約50社で構成する協議会で、同地区に進出した企業の交流団体である「八幡東田まちづくり連絡会」が母体となって、平成16年10月に立ち上げられました。参加企業は、商業、サービス業、通信事業、ホテル業、IT関連企業やアミューズメント施設、文化施設、研究施設など様々な業種で構成されております。

当協議会が立地する東田地区の状況をご説明しますと、同地区は、新日鐵（株）八幡製鐵所の工場遊休地の再開発地区であり、「環境」、「文化」、「IT」をキーワードとして、環境共生まちづくりが進められております。同地区には、開発事業者及び行政を中心に地域住民、民間企業が参画した「八幡東田グリーンビレッジ地域推進協議会」が立ち上げられており、様々な提言のもと、具体的取り組みが着実に進められております。例えば、CO<sub>2</sub>発生が少ない天然ガスによる地域内特定電力供給事業や、カーシェアリング事業はすでにスタートしており、環境共生住宅づくりやサイクル特区(自転車利用促進)、廃棄物・エネルギーの地域管理システムなども検討されております。

八幡東田温暖化対策地域協議会の設立目的は、将来、進出した企業・事業者が共同で環境配慮活動を進める際のバックアップであり、具体的活動はこれからというところですが、本年度については、北九州市環境局と協働して事業者版「環境家計簿」省エネコンテストを地区17社が参加して取組んでおります。夏季、冬季各3カ月間、合計6カ月ですが、各企業が電力、ガス、水道、ガソリンなど項目を設定し消費エネルギー量削減に向けた取組みをそれぞれの方策にて取組むという内容です。初めての取組で結果はどうであるかわかりませんが、少なからずCO<sub>2</sub>削減につながるものと期待しているところであり、また、地区内の自動販売機の環境配慮型自販機（省エネタイプ、バリアフリー型など）への切替えなども検討しております。今後は、CO<sub>2</sub>削減につながる廃棄物分別リサイクル活動支援、エコ・ドライブ紹介・普及活動等も進めていきたいと考えております。

当協議会は、大小、業種さまざまな企業がメンバーであります。おのおのの立場を越えて、立地する地域が環境に配慮した「快適なまち」となるよう、「できることから少しずつ」、微力ながら積極的に支援していきたいと考えております。

## 福岡市地球温暖化防止市民協議会

協議会事務局：  
福岡市役所環境局環境推進課 坂井優子

福岡市地球温暖化防止市民協議会は、市民・事業者・行政が協力して地球温暖化防止に向けた積極的な実践活動を推進することを目的としており、地球温暖化対策推進法第26条に基づく地域協議会の認定第1号の協議会です。協議会事務局は福岡市が務めており、会員は市内事業者等を中心として130団体（平成18年9月現在）からなっています。

市民協議会では、地球温暖化防止福岡市民大会、市民による省エネルギー行動実験、太陽光発電システム設置補助等を実施しています。地球温暖化防止福岡市民大会では、事業者の方と一緒に取組んでいくイベント等を開催しており、平成17年度は10月に福岡市環境フェスティバルにおいて市民参加型のグリーン商品展示会を、1月に環境省地球温暖化対策課長の梶原成元氏と当市民協議会会長の福岡大学法学部教授浅野直人氏を講師に「実効ある温暖化対策について」と題したシンポジウムを開催、2月に小学生による学習発表会を開催しました。また、省エネルギー行動実験では、家庭での省エネの方法を説明し、その効果を電力消費量と料金を表示する機械（省エネナビやエコワット）を用いて把握しながら、省エネルギーの取組を促進しています。その他、太陽光発電システム設置補助として、市内の自己所有の戸建て住宅居住者が太陽光発電システムを設置する場合に、設置費用の一部として1件あたり10万円、年間100件（平成18年度は150件）の補助などを行っております。

地球温暖化の問題は従来の公害問題と異なり、私たち一人ひとりが地球温暖化の影響を受ける被害者であり、同時に加害者である、という点です。しかも、地球の温暖化はいま対策をとったとしてもその効果が生じてくるのは何十年後、と言う説もあります。今こそ温暖化防止に向けた取組を、社会の構成員全体で行っていく必要があると考えます。

市民協議会に参加してぜひ一緒に行動していきませんか。

（問い合わせ先：福岡市環境局環境推進課 092-711-4282）

## 健康の家福岡省エネルギー住宅普及協議会

協議会事務局：  
健康の家福岡省エネルギー住宅普及協議会会長  
福建住宅株式会社 代表取締役 大城寛雅

近年、地球温暖化による気温の上昇を、毎年のように実感するようになりました。

健康の家福岡省エネルギー住宅普及協議会は、地元福岡の工務店を主とする協議会です。家造りの質を高める事で、エネルギーの消費を抑えてCO<sub>2</sub>削減に努めています。

では、家の質を高めるとはどういうことでしょうか？ただ単に断熱性能を高めるだけでは、冬は暖かくても夏も暑い「熱もり」の家になってしまいます。また冬は「結露」の心配をしないといけません。太陽熱を利用した機械の設置による省エネルギー対策の方法も有効な一つの手段ではありますが、家の本質的な部分の質の向上に基づいた対策という訳ではありません。有効な対策としては、『温熱環境の優れた家』を造る事です。

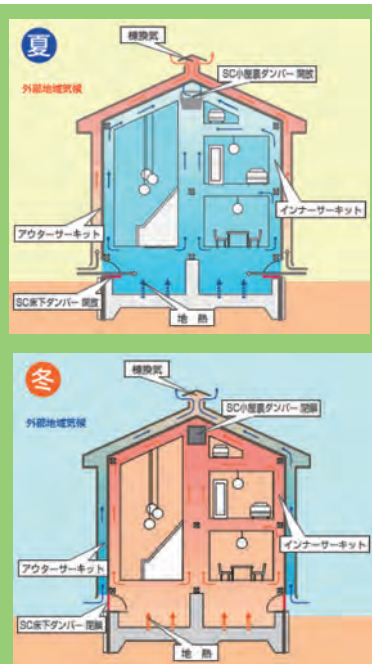
- ・家の構造躯体をどのように造るのか？
- ・断熱性能を高める為には、どのような断熱材を使うのか？
- ・結露を起こさない為には、断熱材の施工場所をどうするのか？
- ・室内の空気環境を考え、室内換気をどうするのか？
- ・計画的な換気を考えると、家の隙間をなくすための施工(気密工事)をどうするのか？
- ・夏の熱ごもりを無くす為の排熱をどのように考えるのか？
- ・夏冬の外からの熱の進入、室内からの熱の流失の大きな原因である窓をどうするのか？

こういった点を解決してこそ、質の高い家造りが出来て、家そのものが持っている性能に拠った省エネルギーの家が出来るのです。

その質の高い高性能の家を我々健康の家福岡省エネルギー住宅普及協議会の工務店は、ソーラーサーキット工法により建築し実現しています。住む人の家の温熱環境を考えた工法です。外断熱二重通気工法です。

地球温暖化と都市の一極集中化によりヒートアイランド現象も昨今注目されています。そして、様々な対策がとられ検討されています。屋上や敷地の緑化計画。道路舗装の技術開発による温度上昇を抑えることなどです。これらの対策のキーワードは、『排熱』にあります。いかにして、太陽からの熱、ビルや車からの熱を少しでも排出し、やわらげることができるかなのです。先にも述べましたように、ソーラーサーキット工法は他の工法と違って家の熱を排出する事が出来ます。しかも、冬には熱の排出を抑えて家の温度を下げないようにする高気密住宅にもなるのです。家の壁の中に空気の通り道である通気層を設けます。そして、その通気層に室内の窓のような役目をする開閉箇所を造り、開け閉めする事ができる家なのです。つまり、季節に合わせた対応ができ一年を通じて快適で省エネルギーな家なのです。

地球温暖化対策として我々にできる質の高い家造り。それは、地球にも住む人にも優しい環境の家となります。



健康の家福岡省エネ住宅普及協議会の会員工務店さんが造っている家は、ソーラーサーキットの家です。外断熱二重通気工法の家です。樹脂サッシを使用して、断熱材の施工場所、気密、換気を考えた質の高い「住心地重視」の家です。図は、夏と冬のソーラーサーキットの家です。

夏は、排熱を考えた住まい方で、冬には高気密高断熱の家へと季節に応じた住み替えが出来る家です。